

実需者提携米取組み生産者の皆様へ

『実需者提携米通信』No.4号

実需者提携米栽培管理のポイント（8月）

ここまで手塩にかけて育てた業務用多収稲も残すところ、一か月前後でいよいよ収穫の時を迎えます。

稲の生育は、7月上旬の大雨と強風で全体的に停滞し、いもち病の発生や籾の褐変などが散見されます。7月28日現在、梅雨明けも8月にずれ込みそうな状況で、気温は平年より高く推移したものの、日照不足によりイネの草丈も徒長傾向にあります。

そのような中、4月25日移植の「ちほみのり」「萌えみのり」については8月中下旬に、「とよめき」は9月上旬、「あきだわら」は9月中下旬に成熟期をむかえる予測となっています。

今回は、収穫に向けた最後の仕上げとして、再度の斑点米カメムシ類防除のお願いと適期刈り取りに向けた判定について掲載します。秋の収穫に向けて今一度、10a 当たりの収入確保のために、収量・品質の確保を重視した栽培管理の徹底をお願いします。

1. 斑点米カメムシ類の防除について

7月9日に千葉県より斑点米カメムシ類の発生予察注意報が発表され、水田周辺でのすくい取り調査において、過去10年で最も多い捕獲数となっています。

長雨による天候不順のため、生産現場では薬剤散布のタイミングに苦慮していると思いますが、まだ出穂期を迎えていない圃場については、個人防除の実施を検討願います。

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	備考
スタークル粒剤	3kg	7日前まで	3回以内	湛水状態で散布
スタークル豆つぶ	250g			
キラップ粒剤	3kg	14日前まで	2回以内	湛水状態で散布
MR. ジョーカーEW	2000倍	14日前まで	2回以内	

2. 出穂後の水管理について

梅雨らしい梅雨で降水量が平年よりあったため、思うような中干しが実施できず、田面が乾かない状態が続き、秋の機械収穫に向けて不安が残るところです。

とはいえ、近年は地球温暖化の影響による高温登熟障害で玄米品質や収量の低下がみられます。高温登熟障害対策や登熟歩合の向上、千粒重の確保のために、出穂後14日間は湛水状態を保ち、それ以降は間断かんがいを行い、極力早期落水は避けるようお願いします。

3. 適期収穫について

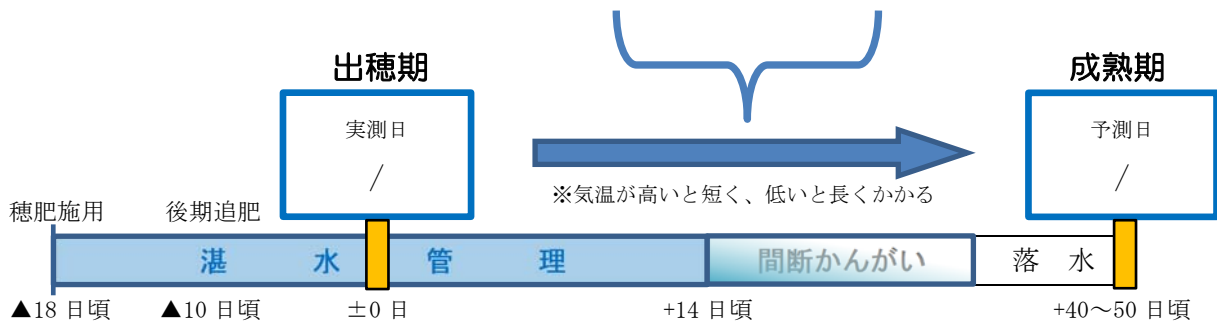
多収品種は、千葉県の奨励品種「ふさおとめ」「コシヒカリ」などに比べ、刈り取りまでの出穂後日数を長く要します。収量と品質確保を目的に、以下の2つの方法で収穫適期を見極めましょう。

(1) 出穂後日数から刈り取り適期を予想する

出穂期（ほ場全体の40～50%の穂が出た状態）を確認し、出穂後日数（表1）から品種別に収穫の適期を予想しましょう。

●表1：4月25日植えの生育ステージの目安

品 種	出穂期	出穂後日数	収穫の目安
ちほみのり	7月10日頃	40日前後	8月19日頃
萌えみのり	7月16日頃	40日前後	8月25日頃
とよめき	7月16日頃	50日前後	9月5日頃
あきだわら	8月10日頃	45日前後	9月24日頃



※確認した出穂期を記入して、成熟期を予測しましょう！

(2) 帯緑色籾歩合で最適な刈り取り適期を判断する

穂首に近い位置の籾の色をよく確認し、帯緑色籾歩合15～20%（不稔籾含む）で最適な刈り取り適期を最終決定しましょう。

**★最適な刈り取り時期の収穫で、
多収と品質確保に努めましょう！**